

みんなたいせつ

今日は、北九州市教育委員会が平成25年度に募集した人権作品の中から、北九州市門司区(もじく)の小学二年生、高城葵子(たかしろあこ)さんの作文を紹介します。

題は『みんなたいせつ』です。

「お母さん、私の名前、どうして葵子って付けたの」と尋ねると、
「ひまわりのお花のように、元気で大きくなりますようにと、願って付けたのよ」と言いました。

おばあちゃんも自分の子どもに付けたかった名前だそうです。

みんなが私のことを思って、願いを込めて付けてくれたのだと分かりました。

今までも気に入っていたけど、これからの私も、

自分の名前を嫌いになることはないと思いました。

クラスのお友達も、みんな名前が違います。

きっと、お父さんやお母さんや周りの人が、願いを込めて一生懸命付けたと思います。

学校で「おへそのひみつ」の勉強をしました。

お母さんは、お腹の中で、大切に育ててくれて、一生懸命に産んでくれました。

いつかお母さんに、「ありがとう」の気持ち伝えたいです。

お友達も、私と同じようにして生まれました。

命はとっても大切なものだと思います。

大切に産んでくれて、私のことを思って名前を付けてくれました。

だから、私は、自分の命を大切にします。

友達も同じだと思うから、みんなのこともちょうど大切に仲良くしようと思います。

これから、私は、お友達や、お兄ちゃんやお姉ちゃんとけんかが、一つもないようにしたいと思いました。

いかがでしたか。

葵子さんは、自分の名前に込められた家族の深い思いや、

母から子へ受け継がれる命の素晴らしさを知って、

自分の命の大切さに気づきます。

それとともに、友達やお兄さん、お姉さんの命の大切さも実感します。

普段意識することはありませんが、私たちが生まれてきたのはとても幸運なことですね。

この世に誕生してくる尊い命。

それは、自分一人だけのものではなく、あなたを大切に思い、

幸せを願う家族や周りの人たちのものでもあるのです。

生まれてきたことに感謝して、自分や周りの人たちの命を尊重し、

大切にしていくなぎもちを持ち続けましょう。

では、また。